

デンタルダイヤモンド／2013. 5月号

○実践歯学ライブラリー

インプラント周囲疾患のリスクマネジメントと治療のストラテジー (辰巳順一)

*インプラント治療は、口腔機能の回復に欠かせない治療法として確立されているが、一方でインプラント周囲炎等の併発症が問題となり、リスクマネジメントの重要性が増している。本特集では、併発症の中でも、特にその治療法が確立されていないインプラント周囲炎に焦点をあてて、インプラントのクリーニング、殺菌剤、抗菌薬の使用法、外科的対応および予防法について述べている。

○次の一手／コンポジットレジン修復を成功に導く器材の使い分け (黒川弘康 他)

*コンポジットレジン修復は、歯質接着耐久性の向上とともに、レジンペーストの改良によってう蝕治療のみならず、審美修復をはじめとした多様化する臨床に幅広く応用されるようになった。そこで本稿では、コンポジットレジン修復を支える周辺器材(切削器具、マトリックス、充填機、研磨器具、拡大鏡等)の最新情報を、その使用法を交えて概説している。

歯界展望／2013. 5月号

○若年者の外傷歯における接着修復の有用性—緊急時にどのような処置を行うか—

(福岡県開業 荒木秀文)

*若年者の外傷歯は、たとえ破折範囲が大きく露髄を伴う場合でも、安易に抜髄をして補綴処置に至るのではなく、できるだけ低浸襲性の治療法を選択するべきであろう。現在、審美性の高いコンポジットレジンが多くあるので、これを利用した処置方法を緊急レベルに応じた対策を含め述べている。

○ペリオの処置方針をどのように考えるか? エンドペリオ病変への対応

(東京都開業 清水宏康)

*日常診療において、エンドペリオ病変に遭遇する機会は多いと思われる。疾患の成り立ちから、原因を診断し、予後判定を行わなければならない。この診断基準、判定基準の根拠をのべたうえで、実際の治療したケースについて、写真もふんだんに載せて報告している。

ザ・クインテッセンス／2013. 5月号

○特集1 歯列を生涯コントロールするための欠損歯列の評価と個別対応 (鷹岡竜一)

*筆者が欠損歯列に対して補綴を行った患者の20年の経過を、様々な角度から考察を加え、治療方針や補綴設計に評価をしている。特に、宮地の咬合三角による欠損歯列の評価の考え方、Eichner の分類、Cummer の分類、歯周病・カリエス・歯質などの「支台歯の条件」、咬合力・ブラキシズムなどの「力の問題」、患者の希望など、一症例を通じて検討を加えている。これらの欠損補綴に対する治療計画の読みが正しかったかなどの考察は、我々がすれ違い咬合も含め欠損歯列を補綴設計する場合、とても参考になるだろう。

日本歯科評論／2013. 5月号

○特集／1つ上を目指す歯内療法へのアプローチ (IIII)

歯内療法における偶発症への対応 (2) (吉岡隆知 池田英治 他)

*日常臨床でよく遭遇する歯内療法におけるトラブル第2弾。今回の内容は、垂直性歯根破折、歯内療法に關与する神経損傷時の痛み、歯内療法における薬剤の溢出(押し出し)、ビスフォスフォネート製剤投与患者に対する歯内療法の注意点についてです。特に垂直性歯根破折については臨床でよく見られるトラブルで、発生のメカニズムから診断、予防法まで述べています。あとの内容についても頻繁には起こりませんが、遭遇した方は少なくないのでは。トラブルを避け、起こった時はどう対応するか、必見です。

○新連載／すれ違い咬合への対応——足す歯列改変か? 引く歯列改変か?

1. 欠損歯列を対向関係でみる (須貝昭弘)

*すれ違い咬合の治療は難症例になることが少なくありません。特に臨床経験の浅い歯科医師はどう対応していいか迷ってしまうことが多いのではないのでしょうか。この連載は欠損歯科治療の基本となる対向関係の見方を解説し、すれ違い咬合への対応について考えていくというコンセプトです。すれ違い咬合について今一度整理していくにはもってこいの内容です。